

「第36回環境教育・環境学習ネットワーク会議」議事録

- 1 日 時：令和4年3月16日（水） 15:00～17:00
- 2 場 所：横須賀市役所5階正庁
- 3 出席者：天白座長、桐谷副座長、内船構成員、遠藤雅弘構成員、遠藤由美子構成員、加藤構成員、高橋構成員、奈良谷構成員、林構成員、吉田構成員（計10名）
- 4 事務局：環境政策部環境企画課（島田課長、鈴木主査、大場主任、天野）
- 5 傍聴者：なし
- 6 その他：一部構成員がWebにより参加

◆ 会議の流れ

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) 令和4年度の環境教育・環境学習事業について
 - (2) 「（仮称）環境教育・環境学習推進懇話会」について
- 3 その他

◆ 議題1 令和4年度の環境教育・環境学習事業について

[事務局からの説明]

令和4年度に環境部ゼロカーボン推進課が実施予定の「環境教育・環境学習事業」への助言及び新規事業についてのご意見を伺いたい。

■ 天白座長

ただ今の事務局からの説明について、ご意見やご質問はあるか。

■ 林構成員

1点目は、環境教育指導者等派遣事業で新たに指導者1名、補助指導者4名が新規登録されたとのことだが、女性の指導者がもう少し増えると良いと思う。例えば、市内活動団体の「おおくすエコミュージアムの会」は、女性が多く活躍しているので、登録を促しても良いと思う。

2点目は、県環境科学センターが実施する「環境学習リーダー養成講座」の参加に伴う交通費の予算化見送りだが、私も10年くらい前に講座を受けたが、内容的に良い講座なので、予算化について引き続きお願いしたい。

3点目は、環境体験事業（猿島自然観察会）について、令和4年度はどのくらいの児童の人数を予定しているのか教えていただきたい。

■ 事務局（鈴木主査）

1点目の女性の指導者についてだが、補助指導者は女性にも登録していただいている。今後、「おおくすエコミュージアムの会」も含め、市内で活動する団体に環境教育指導者への登録をお願いしていきたいと考えている。

2点目の「環境学習リーダー養成講座」だが、今年度、環境教育指導者が1名増えた。経緯としては、広報よこすかで新規登録を募集し、問い合わせいただいた方に環境教育指

導者の要件（「環境カウンセラー」、「環境学習リーダー」、「横須賀市アィクルマイスター」）を確認したところ、何も取得していないとのことで県環境科学センターが実施する「環境学習リーダー養成講座」の受講を勧めたところ講座を受講、修了し登録した。技術士の資格があり、同じ資格を持つメンバーで環境教育・環境学習をテーマにした活動を行っているとのことだった。他のメンバーにも環境学習リーダー養成講座の受講を勧めたが満員で受講できなかったため補助指導者に4名登録していただいた。令和4年度も「環境学習リーダー養成講座」の受講を補助指導者に勧め、活用していきたいと思っている。

3点目の環境体験事業（猿島自然観察会）は、直近2年間は新型コロナウイルスの影響により児童の校外活動がかなり制限されていたが、毎年2クラスは開催している状況。令和4年度は、例年通り児童350人を予定している。

■天白座長

環境教育指導者は男性が多く、併せて年齢が高い方が多い印象がある。どのようなPRがされればチャレンジしてくれるかを考えながら、登録者が増えることを期待している。

■高橋構成員

冊子「よこすかのかんきょう」の制作だが、昨年「横須賀市ゼロカーボンシティ」を宣言し、ブルーカーボンにも力を入れていくようなので、冊子の中にそのような内容や文言を入れていただきたい。

■事務局（鈴木主査）

平成30年度作成版の冊子「よこすかのかんきょう」にはゼロカーボンやブルーカーボンの要素は全く入っていない。新環境基本計画でも2050年に向けて強く意識し作成している。「よこすかのかんきょう」でもブルーカーボンやゼロカーボンシティの宣言、海洋プラスチックゴミのアクションなど、これまでにない要素を市内の小学校の授業でより身近に感じてもらえるよう「ゼロカーボン」や「プラゴミ」などといったキーワード入れ、作成していきたいと考えている。また、ごみ処理施設もエコミルが稼働しているので、環境政策の新しい面も入れていきたい。

■桐谷構成員

来年度から環境企画課がゼロカーボン推進課になるとの説明があったが、ゼロカーボン推進課を含めて横須賀市の環境に係る役所の体制は今後どのようにするのか、環境企画課の役割は変わるのか、変わらないのか、どのようなところに軸足を置こうとしているのか、今後の企業の活動の参考になるのでお聞きしたい。

■事務局（鈴木主査）

これまで環境政策部とごみ・廃棄物は資源循環部で別れて行ってきたが、新しい環境部は環境政策部と資源循環部が統合される。市は、「海洋プラスチックごみ対策アクション」や「ゼロカーボンシティ」を宣言するなど、新しいことに取り組もうという姿勢である。

ブルーカーボン事業は、本市が海に面しているからこそできる温室効果ガスの吸収の仕組みではあるが、この事業は都市戦略課が所管をすることになる。

新環境基本計画は環境部のゼロカーボン推進課で所管をするが、実際はゼロカーボンだけを

行うわけではなく、環境教育・環境学習は引き続きゼロカーボン推進課が行っていく。ゼロカーボンというわかりやすい目標を課の名前につけてやっていくのだが、どちらかという環境企画課で行っていることがゼロカーボン推進課に名前が変わるイメージである。温暖化対策実行計画とブルーカーボン事業は都市戦略課に移管される。

■桐谷構成員

環境と言っても色々な視点があると思う。自然に真正面から向き合う物があれば、企業側からすると物を作るときによりE C Oな作り方や色々な考え方があると思う。

横須賀市全体で見渡したときに広い意味での環境として、どのような取り組みを行っているのか、束ねる部署はどこなのか、実際どのようになっているのかを知りたい。理由として、その中で「こういうところがまだ足りていない。」とか、「せっかくこういう良い環境やアセットがあるのに生かし切れていない。」となる。それは人でも物でも同じで、そのようなところをきちんと見えるようにすると、「実は私はこういうのができるよ」という人が手を挙げてくれるかもしれない。それは色々な団体かもしれないし、その中でもっとネットワークが広がることにも繋がるかもしれない。今、事務局に説明いただいたが、束ねる機能が市としては弱いのかと思う。経営企画部が行うとのことなのでこのような橋渡しをするなどの発信ができると良い。

学習という意味で言ったら、子ども達には色々な広い視点で感じ、考えるようになって欲しい。そのようなベースを作る意味でももう少しご検討いただきたい。

■事務局（鈴木主査）

市の計画に基づけば横須賀市全体の計画の環境の一番上位にあるのが環境基本計画であり所管するのが環境部ゼロカーボン推進課である。対外的な環境行政の窓口は引き続きゼロカーボン推進課が担うと考えている。しかし、機構改革で主に「みどり」を所管する自然環境共生課は建設部みどり政策担当に、ブルーカーボン事業は経営企画部へ移管するなど事務事業単位で切り離していくのが現状である。市全体の環境行政についての所管部局はゼロカーボン推進課であり、個別の事業を関係部局と調整しながら行っていくことになる。

■天白座長

一番上位にあるのが環境基本計画であり環境審議会で審議をしているので、引き続きゼロカーボン推進課と自然環境共生課等で協力してイニシアティブをとっていただきたい。

◆議題2 「(仮称) 環境教育・環境学習推進懇話会」について

[事務局からの説明]

令和4年度から設置予定である「(仮称) 環境教育・環境学習推進懇話会」の概要及び具体的な事業についてご意見をいただきたい。

■天白座長

ただ今の事務局からの説明について、ご意見やご質問はあるか。

参考意見だが、県立観音崎自然博物館に新しい学芸員が入られ存在感を表している。市の施設ではないが、市内にある博物館で環境学習を行っている方なので、構成員に入っていないかと思っている。また、(株)J E R Aにも構成員に入っていないか環境学習の

推進について一緒に議論したいと思っている。

■桐谷構成員

イベントブースでの活動等の紹介だが、日産自動車(株)追浜工場として地域との繋がりをより強くする取り組みを行っている。次年度以降、電気自動車を作っていることなどが、どのように環境への影響を良い面、悪い面を含めて与えているのか市民の方にもっと知ってもらいたいと考えている。

このような場は良い機会なので活用させていただきたいと考えている。

■遠藤（由）構成員

株式会社オカムラは随時工場見学を受け入れている。学校、団体、地域の方々向けに行っているため、機会があれば内容を検討しぜひ参加したい。

■事務局（鈴木主査）

企業や市民団体のそれぞれが取り組まれている内容のちらしや啓発資料などを不特定多数の人が来る商業施設で配るだけでも意義はあると思う。ぜひ積極的にご協力いただきたい。

■天白座長

他の構成員の方もご自分の活動などをPRの場として活用いただければと思う。

「イ 各委員の活動報告と情報共有」についていかがか。進め方も併せて意見を伺いたい。

環境学習は学校や保育園に出向いて講座をすることが全てではない。日頃のありとあらゆることが環境学習にリンクしていると思う。その繋がりを一つ一つ見つけ出すのが面白いと思っているので、日頃行ったことなどの報告をし、意見を出し合っていきたい。

■高橋構成員

この考え方は大事だと思う。年に回数と時間を決めて皆さんが集まる時には、5分、10分でも良いので皆さんが行っていることを情報提供したらいかがか。その中で少しずつ方向性が見えたり、新しい方が加わり、新しい知見が加わり、皆さんの行っていることを報告していただき、場合によってはそれを集めたら何か新しいことが出来るような進め方もあるのではないかな。ぜひ皆さんの積極的な参加を先ずはその場を作ることから進めたらいかがか。

■天白座長

来年度からの環境教育・環境学習推進懇話会は年3回開催とのことで、回数は多くはないが近況報告を兼ねてご意見をいただきたいと思う。

■桐谷構成員

議題の「ア 環境月間イベント」と「イ 各委員の活動報告と情報共有」は繋がると思う。例えば6月の環境月間イベントに懇話会としてブースを出すとする、皆さんが出すイメージなのか。

これまでも構成員が所属する市民団体や博物館のイベントに参加させていただいた。非常に楽しく、広がりが出てとても良いと感じていたが、振り返るとそこで止まっていたと思う。イベントが終わるとすぐに解散していたが、環境についてお互い興味を持ち、意見交換が出来

る場が必要だと思う。

6月の環境月間イベントは一つのきっかけ、始まりになるのではないかと思う。座長の話にもあったが年に3回情報を共有する機会があると良いと思う。

■天白座長

環境月間イベントに関連付けても有益だと思う。民間の意見を結集させ、意見交換を密にし、機能をフォローしていけると良いと思う。

かつて20年程前に横須賀環境懇話会という会があり参加していたが、環境部局が多くない時代で、市民活動者が集まり問題や課題を行政に働きかけを行っていた。今後、「環境教育・環境学習懇話会」は決められた議題をこなすだけでなく、充実した内容の議論が出来れば充実した時間が過ごせると思う。ぜひ、ご協力いただきたい。

次に、②継続事業についてご意見をいただきたい。

■吉田構成員

子ども達が最初に環境教育に携わっていくきっかけとなる意識があると思うが、「総合的な学習の時間に繋がるような内容を検討する」をクリアすることは、教員がクリアし、子ども達を取り込むことになってくると思う。

総合的な学習の時間は3年生から6年生まで年間70時間割り当てられており、教科書がない。学校、学年もしくは個人の先生が70時間分の単元をどのように進めていくか計画を立て、それを実践しながら子ども達がより興味を持てるように取り組んでいる。

特に現場は経験の浅い先生が多く、70時間分の単元の計画を考えることは大変であり、周りの先生たちに聞く、もしくは前年の物をそのまま行っている。

総合的な学習の時間の研究会に所属しているが、70時間分の計画を立てることについては、経験値が高い先生が多い。タイアップをすることによって、案である「エコミルの施設見学」、「オカムラ3R授業」で例えば午前中に見学をし、午後は学校に戻りこの施設を使って70時間分の計画を立てたらどのようにいけるかまで一緒に出来ると、参加した先生は計画を立てる学習にもなり、「実際に学校に帰ってやってみよう。」となり増えてくるのではないかと思う。

これは研究会としての話にもなるので、次の研究会で話題にさせていただくので、この方向でやれたら面白いと思う。

コロナ禍で2年間、総合的な学習の時間研究会が主催のフィールドワーク、郊外で観察したものを基に70時間計画を立てる取り組みが出来ていない。来年度は少しずつ緩和されて出来るのではないかと考えている。行政と総合的な学習の時間研究会がタイアップ出来たら子ども達にとっても実りのあるものになるのではないかと思う。

■天白座長

毎年、小学校へ出前授業を行っており1校当たり8時間くらい任せていただいているが、先生は出前授業前までに子ども達と準備をしたり、授業後にふりかえりをしたり多くの時間が使われているのだと実感した。

吉田構成員のご意見の実地研修を半分行い、半分は模擬カリキュラムづくりのような演習をするのは非常に斬新で面白いアイデアだと思う。事務局も活かせるようなプランを考えていただきたい。

■桐谷構成員

学校のデジタル化はどのくらい進んでいるのか。コロナ禍で弊社もオンライン授業にかなり場所を移し、工場見学もオンラインで行えるようにしたところ、今までは市内の学校がメインだったが全国から申し込みがありかなり様変わりしている。なかなか子ども達が外に出られない中でこのような見学ができるのは貴重な機会である、自動車会社の工場がない地域もあるので非常にニーズが高くなっている。学校のデジタル環境が整うと更にやりやすくなり、色々な機会を創出していくことに繋がると思う。状況が分かれば今後の参考にさせていただきたい。

■吉田構成員

横須賀市は全ての学校で1人に1台、タブレットが配備されているが、具体的な指示はない。「教育効果を上げるために使う。」というような形で全ての学校に整備されて半年くらいなので、現段階で子ども達が自由に操作できるところまでレベルアップしているかと言われると難しい。先生が授業の中で使うための研修がたくさんおりにくると思うのでこれから益々タブレットについては充実していくと思う。しかし、横須賀市ではタブレットを各家庭に持ち帰ることは出来ず、学校内での使用に限っている。

■桐谷構成員

実際、大阪の中学校とオンライン授業を行ったが、頻繁に行われるようになるとすごくやりやすい。なぜなら追浜工場と厚木の開発、本社の販売と全てオンラインで繋げることができる。学校の先生や生徒の前で販売の話をする事が出来てすごく面白いので横須賀市の中で活用していただけると良いと思う。

■吉田構成員

学校側もレベルをアップさせるように頑張っていきたいと思う。企業とのやりとりで学びの質が高まる事がたくさんあると思うので、教育委員会の研修がある中でレベルを高めていきたいと思う。

■高橋構成員

学校現場として環境教育で行いたいことなど希望があれば教えていただけると今後の計画を立てる上で良いと思う。

今回はエコミルの施設見学や、オカムラの3R授業の案が出ているが、その他にゼロカーボンや自然環境など色々あるので、キーワードがあると良いと思う。

■吉田構成員

小学校の総合的な学習の時間を行うにあたりキーワードがある。少しずれてしまうが、小学生は生で見たり、生で触ったりがすごく大事だと思う。各学校によっても異なり、学校内にいるビオトープ、近所の田んぼに生息する生き物などになってくる。ただし、中学生くらいになるとそれが抽象的なものになり、ゼロカーボンや地球温暖化となってくると思う。

■高橋構成員

小学校、中学校で内容が変わるとのことで、どちらか一本化ということだけではなく両方が入ってくるとバランス良く出来るのではないかな。

■林構成員

年3回の各構成員からの活動報告と情報共有の中で話すのも方法ではないか。構成員には、小学校・中学校だけでなく保育園からのご意見も聞けるのではないか。

令和3年度に「よこすか環境教室」（環境教育指導者等派遣事業）で、小学校2校で授業を行ったが、数年前に比べて先生方がよく勉強している。事前打ち合わせで、70時間の総合的な学習の時間のうち今回担当する授業はどの部分なのかを伺ったところ、全体の計画を見せていただき、先生の望んでいることがよく理解出来、それに基づき授業を行った。児童から質問もあり、事前によく勉強をしていると強く感じた。

吉田構成員の話では経験の浅い先生は計画を立てるのにも困っているとのことで自分が担当することで早期に役立つとは思えないが、色々な視点で提案出来ると思う。

■天白座長

「よこすかECO通信」についてご意見はあるか。

■内船構成員

「よこすかECO通信」の「季節の自然図鑑」を学芸員4名でそれぞれの分野を担当しながら執筆している。

先日、事務局に今後の「よこすかECO通信」について伺ったところ、ページの圧縮を検討しているとのことだった。執筆するとしたら1ページくらいあった方が書きやすいと申し上げたが、紙面をA4両面に圧縮する方向を検討しているようであれば、それに沿ったかたちで「季節の自然図鑑」を提案したいと思うがいかがか。

■事務局（大場主任）

「よこすかECO通信」については、来年度見直しをするように財務当局から言われている。令和4年度は紙ベースで1,000部刷り、主に学校に配りたいとして残しているが、今後は電子化で情報を発信していくかたちに大きく変わっていくと思う。今までは紙がメインであったのでA3で4面の構成だったが、電子に移行することにより何面には捉われず伝えたい情報を入れ込んでいく方向にしたいと思っている。「季節の自然図鑑」はA4で残していきたいと思っている。

■事務局（鈴木主査）

刷り物で学校に配布する想定の中で、例えば44号（令和4年3月発行）の1面「外来生物について考えよう」、2面「春の環境学習講座などのおしらせ」があるが、これを見て小学生が自分から参加するのは難しいと思う。刷り物の中では配布対象によっては要らない情報もある。3面「横須賀いいね★エコ活動賞受賞団体の活動内容」は表彰を知らせるツールとして記事を作っているが、毎号3面の記事は困っているので工夫したい。4面「季節の自然図鑑」となっており、1面と4面は啓発系の読み物として引き続き活用したい。2面、3面については、刷り物として無くてもLINEなど電子データにより受ける人に受け取ってもらえればよく、4面に収める必要がなくなっていくと考えている。「季節の自然図鑑」もそれに見合ったページの割り付けで編集したいと思っているので引き続きお願いしたい。

◆事務局から事務連絡

■事務局（大場主任）

事務連絡が3点ある。

1点目は、本日の議題について追加のご意見等があれば、3月23日（水）までに事務局へご連絡をいただきたい。

2点目は、「環境教育・環境学習推進懇話会」について、令和4年4月から令和6年3月まで改めて懇話会委員をお願いしたいと考えている。後日、推薦依頼を送付するのでよろしくお願いしたい。

3点目は、第1回環境教育・環境学習推進懇話会の開催は令和4年5月頃を予定している。推薦依頼と日程調整を行うのでよろしくお願いしたい。

■天白座長

以上をもって、第36回環境教育・環境学習ネットワーク会議を終了する。